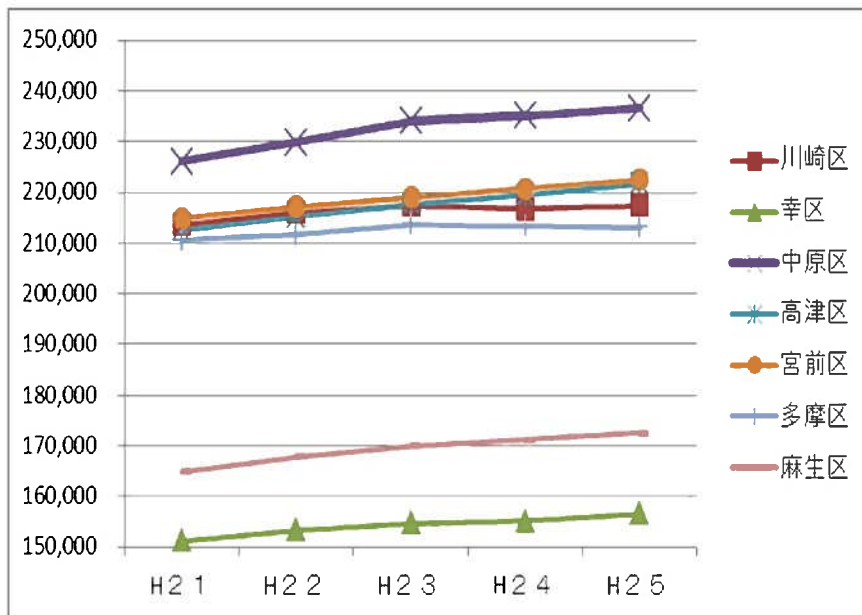




# 中原区における子育て支援について

平成25年3月  
中原区役所こども支援室

## 人口の推移



2

### 本市各区の人口の推移

全国の多くの自治体では、人口の減少、あるいは増加率の鈍化が進んでいる。

ところが、川崎市においては、各区とも人口の増加が進んでいる。

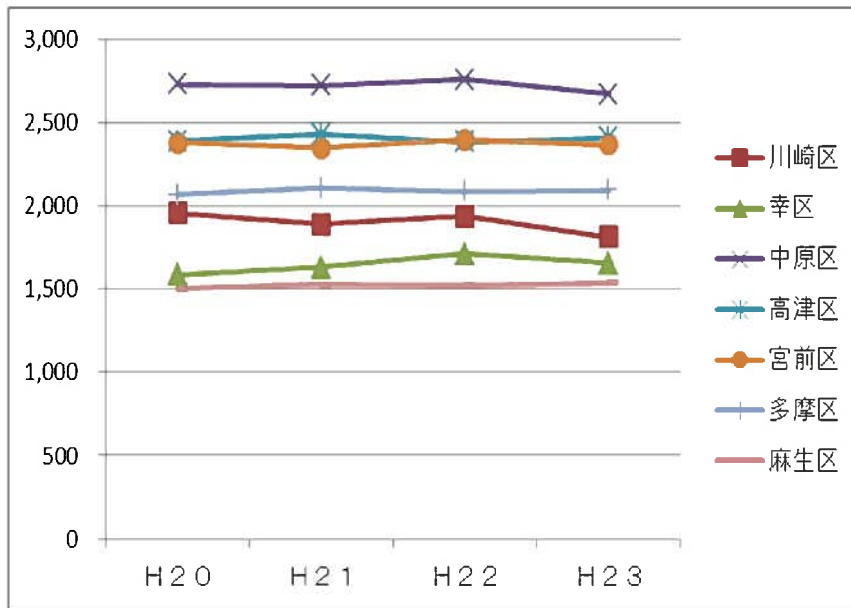
特に、中原区においては、企業が売却した工場やグラウンド、社宅の跡地等に大型の再開発ビルやマンションの建設が進んでいる。

多くの若い世代を中心に転入が増加、人口・世帯数ともに市内で最も多い。

県内の33の自治体中、7位の人口を擁する茅ヶ崎市とほぼ同規模。

この人口増は平成47年まで続く見込み。

## 出生数

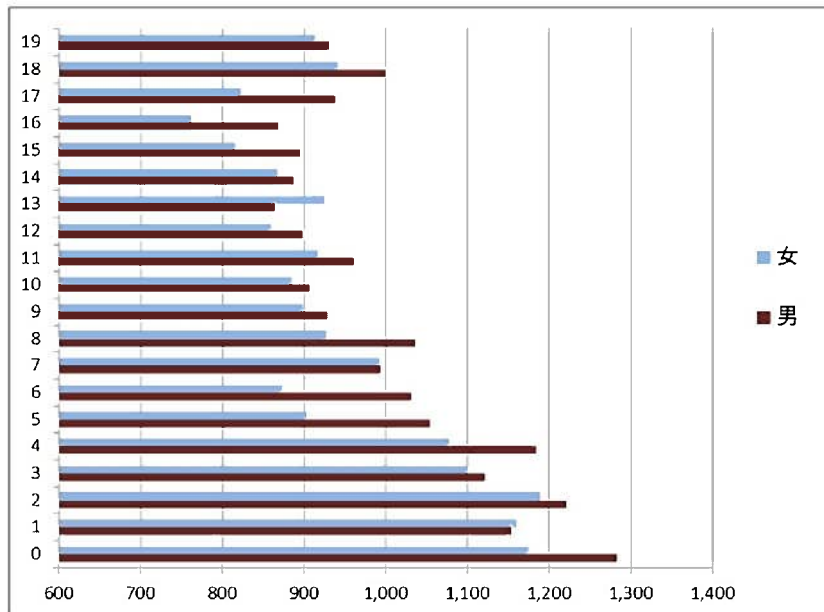


3

## 出生数

中原区の出生数は、ここ数年2,700人弱で横ばいに推移。

## 19歳までの中原区の人口ピラミッド



### 19歳までの人口

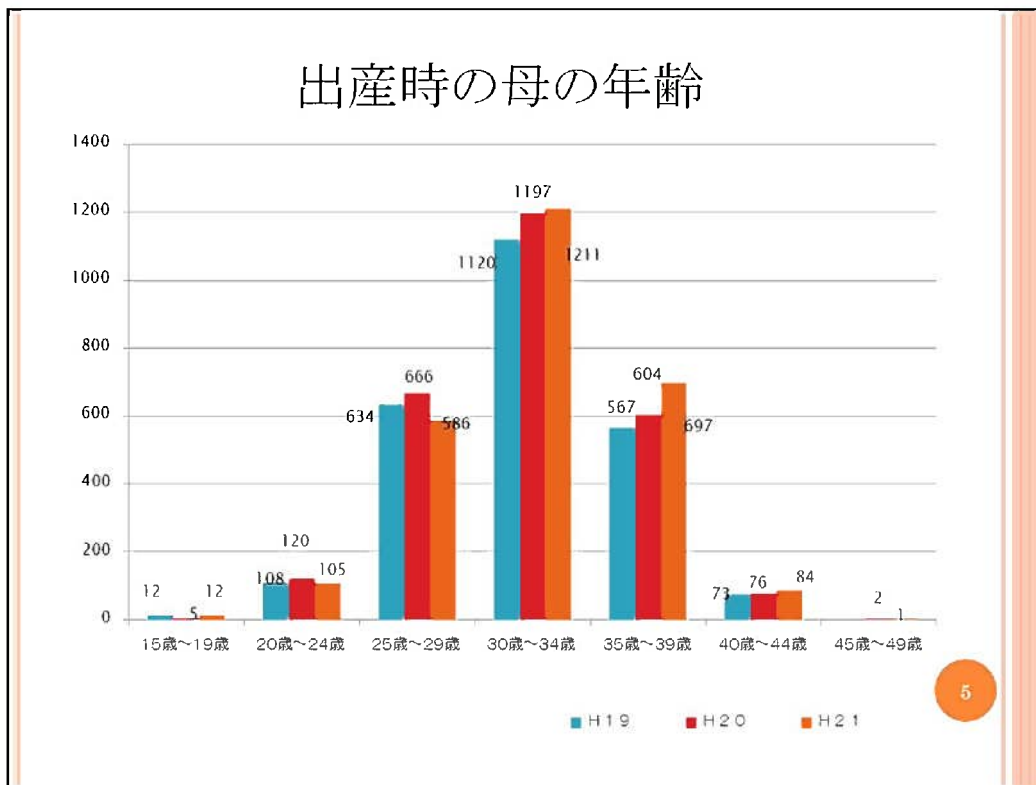
昭和の末から平成の初期にかけて、中原区でも出生数の減少が続いていた。

全国的に見れば少子化の傾向は現在も続いている。

中原区では現在の16歳の平成9年生まれをボトムに増加の傾向。

現在の12歳から14歳の中学生の総数は5,300人余

10年後に中学生になる0歳から2歳児の総数は7,200人を超えている。



**出産時の母の年齢**  
 結婚の高齢化の分析では、適当な相手がないのほか、男性は経済的理由、女性はキャリアアップ等の理由が挙げられている。  
 母の出産時の年齢は、婚姻年齢の高齢化に伴いピークは30代前半。

## 平成22年国勢調査から

	中原区	全市平均
平均年齢	39.9歳	41.5歳
人口増加率	11.1%	7.4%
居住5年以内	35.5%	30.4%
生産年齢人口	73.3%	70.0%
人口密度	15.8	9.9

平成22年に実施された国勢調査の結果

中原区において顕著な事項

平均年齢は全市のうち最も低い。

人口増加率が高い。

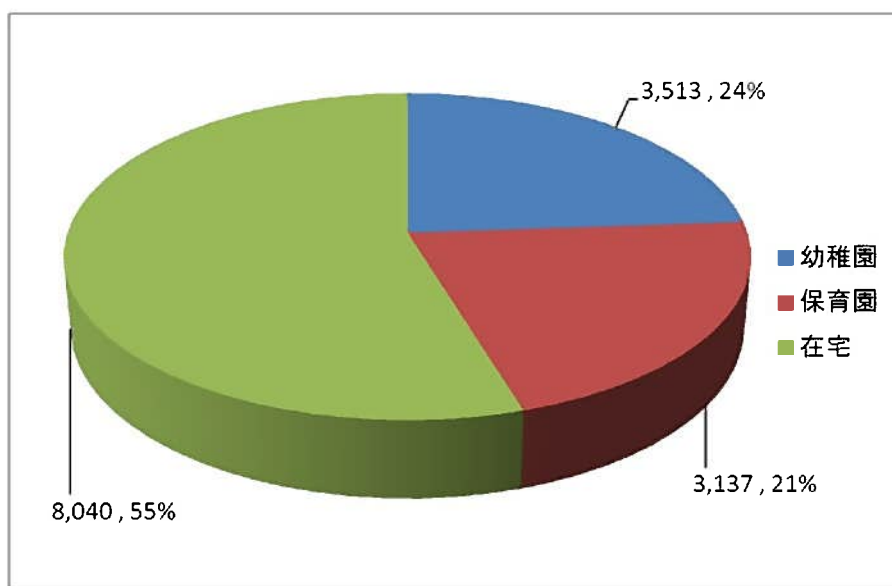
4割弱の人が中原区に住んで5年以内。

中原区は鉄道や道路の整備などが進み、生活の利便性もある。

30歳台から40歳代の若い世代を中心とした大幅な人口の流入と集中により、生産年齢人口の割合は高い。

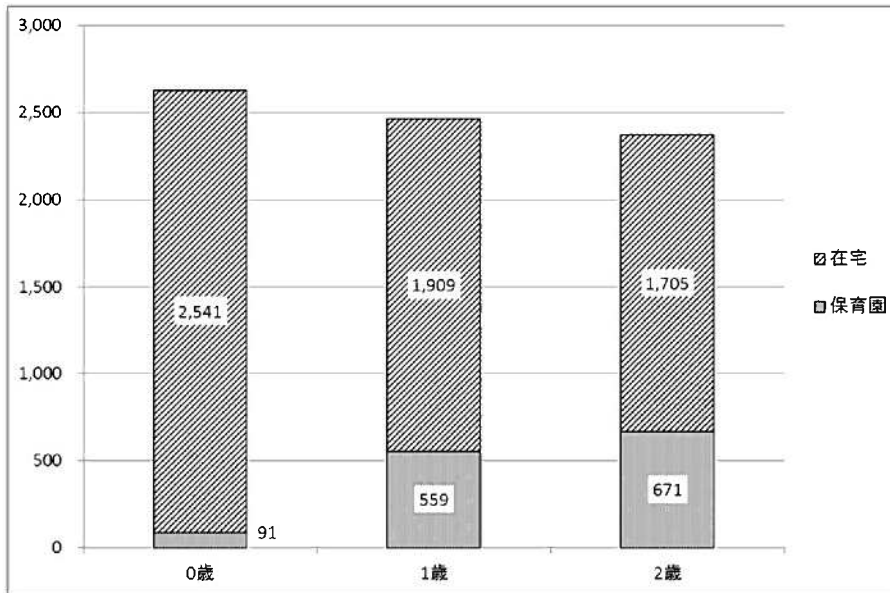
マンションなどの集合住宅が多いことから人口密度は極めて高い。

## 未就学児の過ごし方



中原区の未就学児童	14,691人
3歳を過ぎて幼稚園に通っている子 (24%)	3,513人
保育園に通っている子 (21%)	3,137人
その他・在宅で保護者と生活 (55%)	8,041人

## 0・1・2歳児

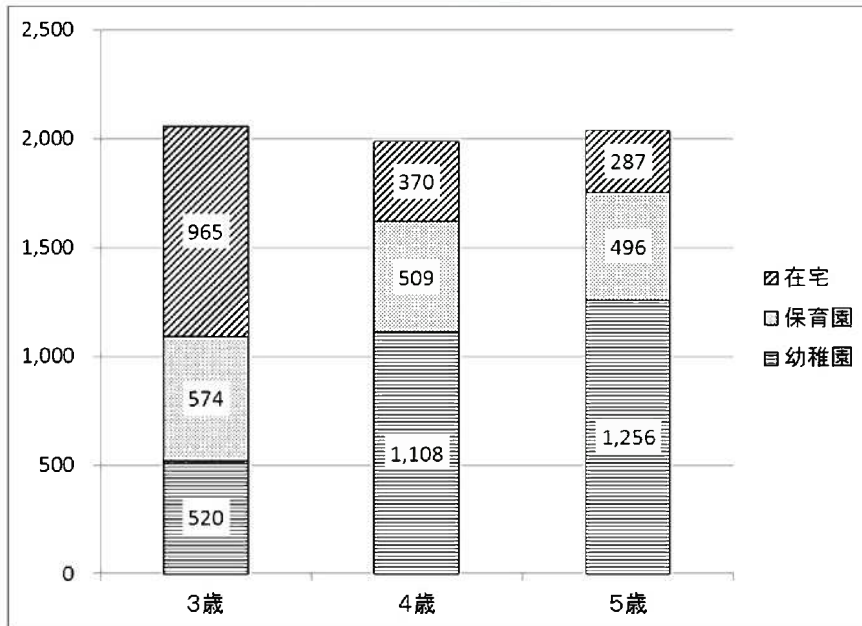


8

	幼稚園	保育園	その他・在宅
合計			
0歳児	0	91	2, 541
2, 632			
1歳児	0	559	1, 909
2, 468			
2歳児	0	671	1, 705
2, 376			
合計	0	1, 321	6, 155
7, 476			



### 3・4・5歳児



9

	幼稚園	保育園	その他・在宅
合計			
3歳児	520	574	966
2,060			
4歳児	1,108	509	370
1,987			
5歳児	1,256	496	287
2,039			
合計	2,884	1,579	1,623
6,086			

## 第3期区民会議子育てアンケートから

### <調査概要>

実施主体	中原区区民会議、中原区役所
対象者	乳幼児健診に来庁した保護者
調査期間	平成23年10月から12月
実施方法	直接配布、回収

回収結果	対象数	930
	有効回収数	537
		(回収率57.7%)

10

## 第3期区民会議子育てアンケートから

### 区民会議委員がアンケート調査を実施

目的:「地域における子育て応援体制づくり」をテーマに審議を進める中で、

子育て世代の方々から直接考え方やニーズを伺う。

対象:乳幼児健診に区役所に来庁した保護者。

乳幼児健診は対象者のほぼ100%が受診する。

子育て世代のおおよその傾向が明らかになった。